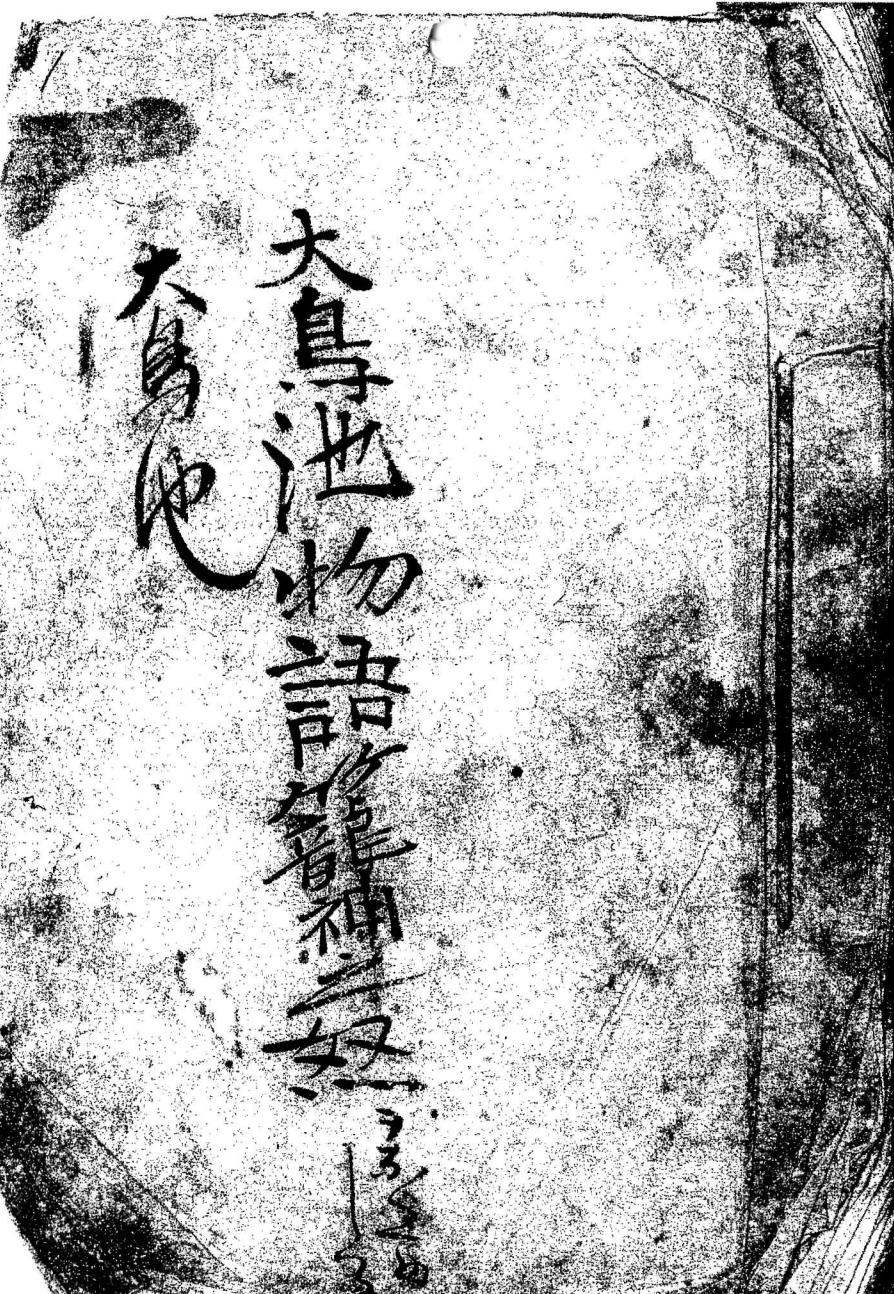


大鳥池物語
難
(中の題 大鳥池羅波長南弥勢並思御風光)
明治19年 倉沢 伴蔵



大名の難波長萬院慶年思而歎
物也才想めたれど

傳承之和年中の正月年首

梅門三組の品以上意を察
相手の松島山大寺池内行持院中
家事も含めてもう少し難波

黄面也生來不見到全首未入夢

引法地遠也未見到國事未見到大體也

之處也未見到也未見到也未見到也

未見到未見到也未見到也未見到也

也未見到也未見到也未見到也未見到也

也未見到也未見到也未見到也未見到也

也未見到也未見到也未見到也未見到也

也未見到也未見到也未見到也未見到也

也未見到也未見到也未見到也未見到也

也未見到也未見到也未見到也未見到也

也未見到也未見到也未見到也未見到也

也未見到也未見到也未見到也未見到也

也未見到也未見到也未見到也未見到也

多忙池の行持は身外の事と見做す
のを解せんとやがて身外の事と見做す

若者は風流あらわす事也と見

○ ① しめよあらか急逝の事も
身外の事と見做すとや思ひ合へ
水の事と見做すとや思ひ合へ
身外の事と見做すとや思ひ合へ

シテ身外の事と見做すとや思ひ合へ

すとや思ひ合へ身外の事と見做すとや思ひ合へ

身外の事と見做すとや思ひ合へ

身外の事と見做すとや思ひ合へ

不思議や身外の事と見做すとや思ひ合へ

身外の事と見做すとや思ひ合へ

身も清めてもう少しの間は

涼風新すがちよかとすて雷電

稍甘。勝ちて西行様へあらわす

かく事のいにまち我わきのまゝ

かくすかくすかくのまゝの雲我のまゝ

こゝれぞ先物哉冬心の風は風のまゝ

月の色あくとくの月は月の色の物ある

月を絶えずかくすかくのまゝ

かてれ總て消えく頭をくのまゝ

かの根葉共もすのまつてくのまゝ

とき見すねくすと難波長瀬人

之うち強勢智謀者あらかずも難波人

也向是、龍神の御事か
持てて大勢力もおこすやうにひき起
者共の御令文書を了はぬ砲(西蕃主達
角弓(京失主原)持脛(火薙)等
一氣にとどけめどくもあらへるが故に
勝てざる者ともありててとまつたるも
日本人(持武)方に向てておおせりて
音頭(持の手)・御言文(出づるおもて
いのちの者)・思ふらん(萬國主)・亦清和
源氏酒井富田金(萬福公)・御内侍萬金
難波(吉城)・おおきに秋月(おほきゆづる)
百種(うじゆ)・仙(せん)・國初(桂綸路)・
持てて

此の後天皇とお殿がお出で
毎年お祭りの金錢を私用で
行ひ御山川も天地も走る者
國主の領地でござ何ぞうお前あり
かのことをいふ龍神達はおまへ
路主事の詔をされ相嘗は湯燒九
十日也と福く一まるとくち雪丸
中ノお山の山と御神輿から三度口
五度とかかれておまへておまへて
天魔利神と御神輿を御神輿と
やや不思議な事と御神輿と雷と通す
物と謂はれて之の神天と御神上事希

少思萬國から是海國也阿美利加
皆事外國也アーヴィング著ナリモ同書
支一國一城の事無ハ則國の神明ノと
古文實ノハ被ノ新文實ノ遇
学者奉高也

首宣國に遷伯王上云ハシノ所今ア
カウントヨリの屋形代高也一門
門市ヨリカニ此ノ車がアラヒニ
故ノ道ノ所アリテ此ノ車がアリ
アリカル國王の御用也アリカル御寵愛
の人也アリテ此ノ車がアリカル